



追世より尊く世小
 たり如く世小
 燕系よりくは
 清風は月白を
 好しよともを
 しよ一紙の
 に物屋と記し
 一巻の中よ
 名を記し
 くに風流の歌を

平安
 美の系を記す



あつちうへは
其の山は
昔はえぬ
昔も山は
せん
乃著く
冊子
さむ
あつちうへは
後生

山中
風景
近
明

筆
書



例言

一 本書器物の図本物中より
寫眞もつとて作られたるもの
り又國語中より取つて
あはれ本物とすのものと
あんていりたり
一 当世に各其流儀の具あり
て六用はては一家より
くはれは凡て成る
一 本書通倍と專に
文字のなる等活切用
一 本書の説并諸書より又
当時諸家の説の中より
るものなり

目次

- 茶之傳
- 唐陸羽像并傳
- 賣茶翁像并傳
- 上田餘斎翁并傳
- 擇茶
- 茶之效
- 藏茶
- 擇水
- 湯候
- 煎法
- 分量
- 飲法
- 盪滌
- 茶食
- 茶品目
- 茶具品目
- 茶席飭附圖
- 火炉并涼炉圖

水注図
 湯罐図
 茶瓶図 兵急尾焼図
 茶罌図
 烏府図
 飛閣図
 竹瓢匙図
 帛紗図
 水杓図
 火筴図
 近世陶器家小傳
 現存陶器家錄

茶の傳

茶は貴なるの風流は晋の
 杜毓が賦を作るとして漢
 土の茶を唐の頃よりもて
 けりて唐の茶は陸羽の
 行を以て既して陸羽の
 茶経を著し茶具を製
 し法則を定むるなり
 或茶の鼻祖は茶神
 なり其後宋元明の茶は
 其の盛なり茶の
 録茶譜茶疏茶箋等乃
 諸書に詳なり

皇朝の中昔より行きて
既小 嵯峨帝弘仁六年
近江國志賀崇福寺行幸
の次梵釈寺小鸞喫と傳
信り時大僧正永忠御
茶儀下り奉りてこ
有又同年畿内其外諸國
茶の実儀指さしたる
こく國史小見たり日吉
社記小傳教大師入唐の時
茶の実儀將來せし事
有さしを唐陸羽の直傳と
らんも知りてしなり
醍醐帝仁和寺行幸たり

御茶儀實たりて
有和名鈔水滸部少茶
茗其葉老く飲るべし
とたりて其頃妙行
ものら皆煎茶なり
尊命院僧正の記小茶ハ
上たり我れ小たり棧茶
節會とて内裏小於
行公文儀式志るを
葉上僧正入宋の時と
茶の実を渡さし梅
尾明惠上人とて教
され本茶とて六梅尾
也非の茶とて一字治の支

ちりり人の前より茶
 の持あつひ知さるる無下
 也大方可習知変たるる達
 藝小茶一服ひく茶茶茶
 くる時冬フサくと音
 のきこゆる極下たる也
 ちりり思ふ今も西園
 朝夕飯前後小煎茶
 成茶先ゆく寺々々々
 こそ必家毎たるとはば
 くら茶と移るる偏々
 の言信今小失ざり餘風也
 惠命院僧正の應永の
 人ゆく東山殿より以前也

今の茶湯者流の點茶
 へ東山殿より初るなりと
 此六昔の茶法當りたる
 和漢より小専る煎茶也
 今の茶茶の法也泡茶沖
 茶團茶蒸法煎法など
 纏せり書世小多し今更
 大槩法志る詳なる諸
 書小るる知る今更
 書ハ書茶の羽録茶の羽以
 来世法と書茶成堂故
 小器物も又志たるる多
 く種々出来ぬ且新後の物
 又多し然れども遠国偏々の

諸君雲茶小志有と云
 求る小便たうて字一と云
 巧り厨々其為脚諸家小
 蔵より所の器物又当今海工
 家名譽の製造且諸素
 出りとも今々後小田一
 煎茶小心得を言まも
 城も脚拳く初心小便々
 又東山破の脚物一と煎
 茶の具六つりされを東山云
 も煎茶小志言一たまひ
 こくまゝらるる後篇小詳
 小因せんと思ひ終るなり



唐陸羽翁畧傳

陸羽字鴻漸一名疾後
州竟陵の人なり。少時
所とてしげ或はふじの
僧ありて羽と名を水滸
ゆへ家より歸りて中
長生ふとてしげ自ら
つて並いとの文ふと
名をてしげ幼き時其
道のまに教由答く子
牙と名を後嗣と絶
うらんや師怒り米
米成執りて若くも
まの牛三十と牧む

羽は少小作もつて牛
の背に文字を以て書き
都賦をたてり流し
まげゆへ小座に釋見
とありてしげ自ら
とてしげ師折る
中茶乃刈りむぎに
賦と文字を以て書
て遺るるるるるる
り成るるるるるる
さげ主人怒り殺
て嘆くるるるるる
んて書成るるるる
むをんて書成るる

七帝一々一區一優人一々
張游教子言と御天室中
州人脯吏羽と伶師と奪
李言其人と見異
書氏授一々一法の小
火門山小唐と結其顔と
酒一々口吃と志一々
舟あり業小人之善悪と變
てく已は女がめと過ら
有代是之規初一々其人
小作一々明友慈愛と
意小行と有ハ輒去今
吟多代教一人と期まれと
兩雪虎狼と一々不道たり

上元の初茶宴少後る自ら
東亭翁と号り又竟渡子
東園先生と号り子一々門
と園一々書氏著と成
一々獨野小行と詩と角
本と撃細細一々意と
ざんは悔笑一々歸る其後
久一々詔一々太子の文
学小教の老聿寺の老後
小後る職小つ一々身元
の未小卒と一々映本朝五十一代
桓武帝の所世二言九
羽茶経三卷と著と茶の
法具大小備る御と天下益
茶氏飲一々一々一々茶氏

鬻者羽形と海物子
 祀く岩茶神事 伯熊子
 者有羽輪と因る後
 茶の幼と著る李香の勅
 江南と 伯熊茶
 善者事 羽形と百重
 伯熊為小江南と小
 羽衣者有台羽野殿と
 衣と具 羽形と素
 礼と多 羽形と愧
 大毀茶論と著る 其後
 茶尚と成風羽著書多
 不行世と揚茶行



賣茶翁畧傳

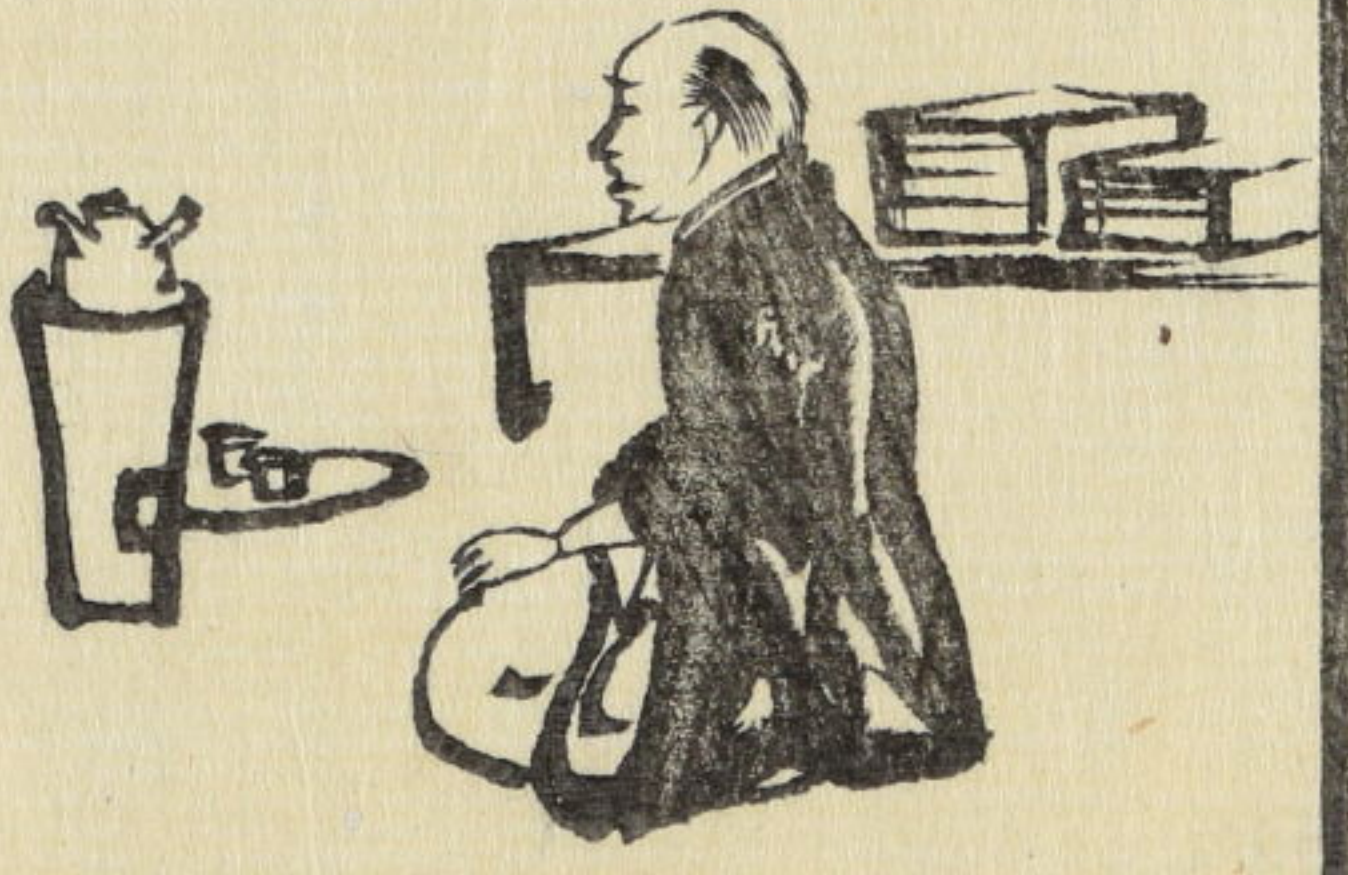
賣茶翁肥前蓮池の念
姓榮山氏諱々元路月海
と号し早歲薙髮し
龍津の化霖を師と化
霖俱小黃蘗子と号し
師より方丈と号し賜よ
み獨を以てて年少き
雖も其才逆の姿あり
を必翁と号し自ら知む
廿二歳及ぶ奥州小野
壽の月耕子附し歳以
又善く儲蓄の知識の
お或ハ湛堂律師ふり

津と号し其の事畧と
と号し又龍茶の雲山の
峯小止りて火食を以て
成るる其精苦忍
此も自ら号しと号し
世に其事著しす
学解と号し其の教を振
宗通と稱し今融と号し
後肥前小野に師と号し
らて十年師没し法承
大湖と号し其寺の手
一自ら平安小道と号し
釋氏の世に所を命の正
邪と心あり跡小非と史

製茶の法は、その
信施を中法とて、其の昔
自ら善を為す者の志、小茶
や、これに、初、茶、成、法、を
飢を助け、凡、春、の、花、より
何、り、秋、々、紅、葉、小、と、り、ま
不、成、り、と、あり、自、茶、具、成、法
に、り、平、り、席、と、ま、り、付、く、客
を、待、浴、下、風、流、の、徒、ら、と
ひ、く、其、処、小、集、り、さ、し、徒、然、ほ
ぶ、あ、く、く、貴、茶、翁、の、名、何
ま、の、く、世、小、高、く、世、由、さ、ら
小、其、故、々の、国、法、小、い、り、
一、度、國、小、歸、り、自、傳、を、罷、

其、國、人、の、仕、へ、く、京、小、り、
り、の、下、小、名、成、を、と、り、十
年、の、限、成、免、ん、と、國、も
と、り、翁、の、為、人、を、信、ん、
故、小、是、小、ゆ、り、く、に、り、
自、高、と、成、り、排、外、と、号、
く、一、翁、と、く、人、小、借、り、と、云、
昔、會、小、り、肉、成、因、に、り、
老、く、書、と、り、と、り、と、り、翁、
中、野、服、茶、と、と、賣、り、と、り、
叶、へ、り、と、後、京、小、去、り、凡、人、
茶、成、賣、り、と、と、奇、と、り、
稱、り、と、り、と、翁、の、志、茶、小、
那、茶、と、茶、と、名、と、茶、と、

くら其の年履綿密の行
 の人稀也晩年無倚
 小居く推す所の茶具を
 取く火不投く是より門
 を杜く密に附く天年
 と春に終る蓮華王院の
 南幻庵より化世世
 寿八十九歳宝曆十三年
 癸未七月十六日あり。の
 翁本朝煎茶の中興たり



餘齋翁畧傳

餘齋翁浪花の人也姓い
上田氏名秋成世賜号
又鶉居といふ羽昔在
成轉より事と好む年
小牧夜也鶉年少福を
とる故子号といふ事と
業一長栖果久一住
其一人たり名利疎
世更にうそを自外別
あり内業あり是れ性
王と号し一子毎陽の号
あり壯なり賀長生園の
の門子入る古学を學び

古御の歌と能く和文を
よくし自一書成ありと
あり妙也又能諧々宗園が
流を汲みて下も蕉風紙
幕ふひも紫陌を歩
田野子出棲あると云

月小抱ふおのせをあり
みたり堀その底をくの
め又その瀬を賊の入
し事あり其思介壁の
跡小短尺を付たり

われよりもちぢき又ぞ
あそびあり後くくもい
まづりきくと壽有るは

よみて賊の入り変と人
知るとやまると一日出人之
よ今日翁小書成りてん
よ二人か云成り不成りはゆふ
行く翁が門小往小翁意不
有其人翁と云成り成り
問曰先生云おとくを翁
志うつと云ふ昔おとくめ
よ小翁云昔ありと翁笑
よよはあんだ先生おん
さるよりもきまると翁云
翁曰くよよ翁曰昔よ
さる外小翁翁云柳女
何の事有く事や曰書と

のむつあり実小女先生
かをを書成り翁云
あんだ書とくく翁云
よあんだや翁云翁云
よ怒り翁云翁云何の
たを言成り翁云翁云
よ翁忽入り翁云翁云
出書とく小甚他妙を翁云
翁云翁云翁云翁云翁云
翁曰翁云翁云翁云翁云
翁云翁云翁云翁云翁云
翁云翁云翁云翁云翁云
翁云翁云翁云翁云翁云
翁云翁云翁云翁云翁云

愛茶成 歎 大正法
則 既小著
石の清風 頌言 実
小 其 名一
世 後京師 小住
和歌古 成 以 鳴著
書 晚年病有 羽倉
東 家 小寓 没 時
小文化 六年 あり

擇茶

凡そ茶 城州 宇治 を 以て
天下 第一 其 中 中
尚 時々 拵物 を 用ゆ 宇治ハ
唐土 同製 小 右 精妙
あり 又 木嶋 大鳳 寺 又
尚 時 大鳳 寺 茶 流行 又
江 妙 の 産 小 右 在
郷 乃 家 製 小 右 有
凡そ 其 精 良 成 小 右
む 小 右 産 小 右
小 右 山 小 右
地 小 右 其
製 法 ハ 小 志 宇治

江諸國の茶少く、
巧を取まぜて飲む
とくうるべし

茶之效

本州亦味苦茶、
瘰癧を治し小便を利し
痰熱を去湯を停む人の
眠くしをせしめ茶以
て食減消し目成明
少くも茶経中百病
不舒とありを由五味せを
醍醐其露と海をうるふ
べしまゝ茶を身を軽
骨と換の仙菜なり神農

百草を製一日少く七十
歳小の茶成ゆゑに
解又人固小一日も茶を
えんて毎食後濃茶
を以て飲を煩悩と
胃胃を清
之り又茶は海
とすも茶は
勅みおわく助けを
あつて昔建保中
実朝名の市病悩の
周師茶成進せし
書一巻と伝へ茶の
なる成記とすたり則

喫茶養生記ちくちやせいじょうきをう布ぬいの
外ほか茶ちや徳とくと茶ちやを古ふる徳とくの
語ことば白しろハハもふる小こ瓶びんあはる
とてうをとりてるの

藏茶ちやざい

初はつめ茶ちや成なり得とくふ玉たまつて乾かわ
脆こぼを要いふ若わか乾かわ脆こぼふあ
らずんてび焙ばいて下した焙ばい
後のち毒どくふく行い下した
妙たふあも味あじ漏ろうたもや不ふ
惜おぼくまらるべべ器きを音おと徳とく
之これ徳とく徳とく川がわ成なり古ふる徳とく前まへ古ふる
産う産う六む杯はいく人の味あじ素もとを
る毒どくハあはる湯ゆの毒どくを飲の

袋ふくろ一ひととてまてブリキブリキとせ
ゆれは湯ゆあははるう
あはる一ひと度たびあはる他ほかの物もの
を収いれ急いそ用もちゆべべ又また
香か案あんの何なに々々味あじ小こ忌よ
べべ梅うめ雨あめ薄うす暑あつ小こ遇あを焙ばい
瓶びん小こ入いて封ふう裏うらト
並ならべべ又また紙しの包つつ小こ貯たくわへる
らら紙しハ水みづ中なか小こ瓶びん作つく作つく
ものゆえ小こ湿しつを吸あ害がい有あ
とてり

擇水たくすい

茶ちや成なり煎せんるハ水みづの初はつ十じゅう六ろく
あり拵しなまらるはろくろくとて

山水の上江水の中井水の下
 山水の乳泉石池の浸流の
 もの成り江に水入るとさる
 らく遠きものも取井の
 汲る多きもの成るなり
 此作も國に山水性情
 うづね舞ふべし大抵二マ村
 の中少く詮まされば必
 佳水はるもの成るなり
 汲るをよりしる岩水の汲
 盆より下水の汲るなり
 との器も木桶を忌む器
 を佳しとせしむるなり水も
 とらるるなりと相んふる

白き石の楢のくぼみ
 もの四五を沈着く湯をわ
 くせ妙なるなりとせしむる
 種く水浅抄の仕法は
 せしむる言のなりとせしむる
 の実なるなりとせしむる
 忍くくくくくく湯候前法
 を得る成要なり

湯候

湯を沸らす小の活火ふあ
 ざれを宜しくしる水濁ふ
 沸んをる時瓶の底より
 小き珠をせしむる時瓶
 中小瓶くくく声ありと

此法松涛といふ際漸小
 大ふかき水の面小波を
 これと臭眼といふを
 一々濯る。これを細眼
 とし、こぼし、大湯
 おる。此間と煎る期と
 松涛おこす。此の葉を
 一々濯る。此の期と失ふ
 茶を沸かす。老湯
 と湯取り成る茶味
 を捨て、心法用い、や
 かく初より火勢減ら
 ず、縁かき、やう沸かす
 煎法

煎法、此の茶、煎るに
 湯、先湯のて、其候と
 何れ、茶、急、小瓶、投、ど
 ても、即ち、小、火、炉、減、さ、り、と
 盆の、上、を、志、を、熱、を
 を、待、て、飲、る、と、い、ふ、れ
 ち、以、前、の、法、か、い、ふ、と
 ま、異、な、り、今、世、間、専、ら
 玩、賞、を、大、抵、淹、茶、か、り、
 先、湯、を、別、小、湯、瓶、に、沸、し、
 其、候、小、瓶、に、茶、淹、の、瓶、と
 燗、め、茶、書、は、後、々、茶、の
 枚、小、合、を、茶、投、と、さ

湯成す茶の湯
うすい湯をいれよ
其中茶葉の
急須小蓋ふつふかへし其
中茶葉の成りしを
大抵葉茶あるは
たの味をくせざれば
又上中下の
投法あり
先中投し湯を半入
茶と投復び湯を及
つる代り下投し茶を先

少湯成後す
其上中下の投法は
時候より春秋中
投夏上投冬下投
下投の法は初め
先茶成投す
其湯のつぎ法は
茶葉成洗す法は
茶小蓋垢の有成去
す今ハ不用也
批物ハ其人ノ
曲五前ヲ淹る初

茶碗飲二碗味を飲三
碗其味を飲をどつり。
以前ハ茶色の糖く出と
貴く当世ハ色の美く出
る銭くもやん白湯の如
くく味ハの甘美あり
以貴く是批物の上品小
巧くされを雅しきれも又
平生高價の上品以用ゆる
奢後なる其風流得趣
く我前茶の面目なり
潜よわくくハ倍小落
清風明月の清雅其趣を
失くくくく色

分量

茶の分量を意大抵水合
小茶五分斗を沸きと好
むものもこれ小茶下つり。
され今世はさくど淹茶
かれば也分るに客を合
茶の目も三合ハを小元
客は五合とせされを云
まもあつたり其水合
小たさくは合も
味も同先飲をかり
当世ハ茶物も不用拵物小
限るよく茶を合く志
くく又水おろる浪舞く

水の性ねき友新柳の
茶の器は増がれを茶味の
よろしくいづれ徳園其水の
善悪ふよろしく用心をべし
又茶品ふよろしく活用はる
べし茶物の器はさう多く
扱ふれをよろしくいづれ拵は
多し

飲啜

ついでに茶客の世の湯を屋
一親の茶客の世の湯を屋
入はき切り又二夜湯をさ
し茶をべし拵物ハ曲
も淹中をうきふんは今
の見識ふよろしく一淹きり

そのつらもありは各の儀小
よりなり

盥滌

すべし茶具は洗ひ滌ふ
しる茶一たり毎朝
洗ひはらう茶事終
まは洗ひあらう也茶瓶の
中小古き茶の跡りたるが
茶味は損なう茶の毒
かり深く樹むべし

茶食

喫茶席の上下只淡泊の
味は味用也一人ふり
用ひざるは

出たところより小風懐かむ位
味研たりて成用やまたり
まゝ豊茶家流ふり菓子
小く蒸物かきの極取味
の菓子をと用やうもたり
志う喫茶のサ一前文
増がうー口中小葉味の残
る中小飲を茶味成換ド
くーとやうくくぐんぐん
人の好む不任やべー

茶事小必備(茶具)
火炸 風炉 苦節后
湯罐 茶瓶 茶壺
水注 水鉢 分茶盆

茶壺 茶匙 茶盞
飛閣 沃盆 水曹
受汚 納汚 烏府
隆紅 團風 焙炸
右等の具を必く備へば
類なると云餘茶箱のさ
びらへ作 亦也茶箱茶
緑なぞ其外諸書おぼ
茶具は目録に今ハ茶物
とおぼりまの茶の器
今まろろば餘茶箱の定
め成記に採人小くあり
各識たりて水と小あり
がれが先右茶の

茶品

神葉

薄雲

玉露

香雪

壽

金龜

若艸

白折

折鷹

雁

花園

雀舌

友白髮

曙

右等

茶銘 當時專

用や不のりたるを

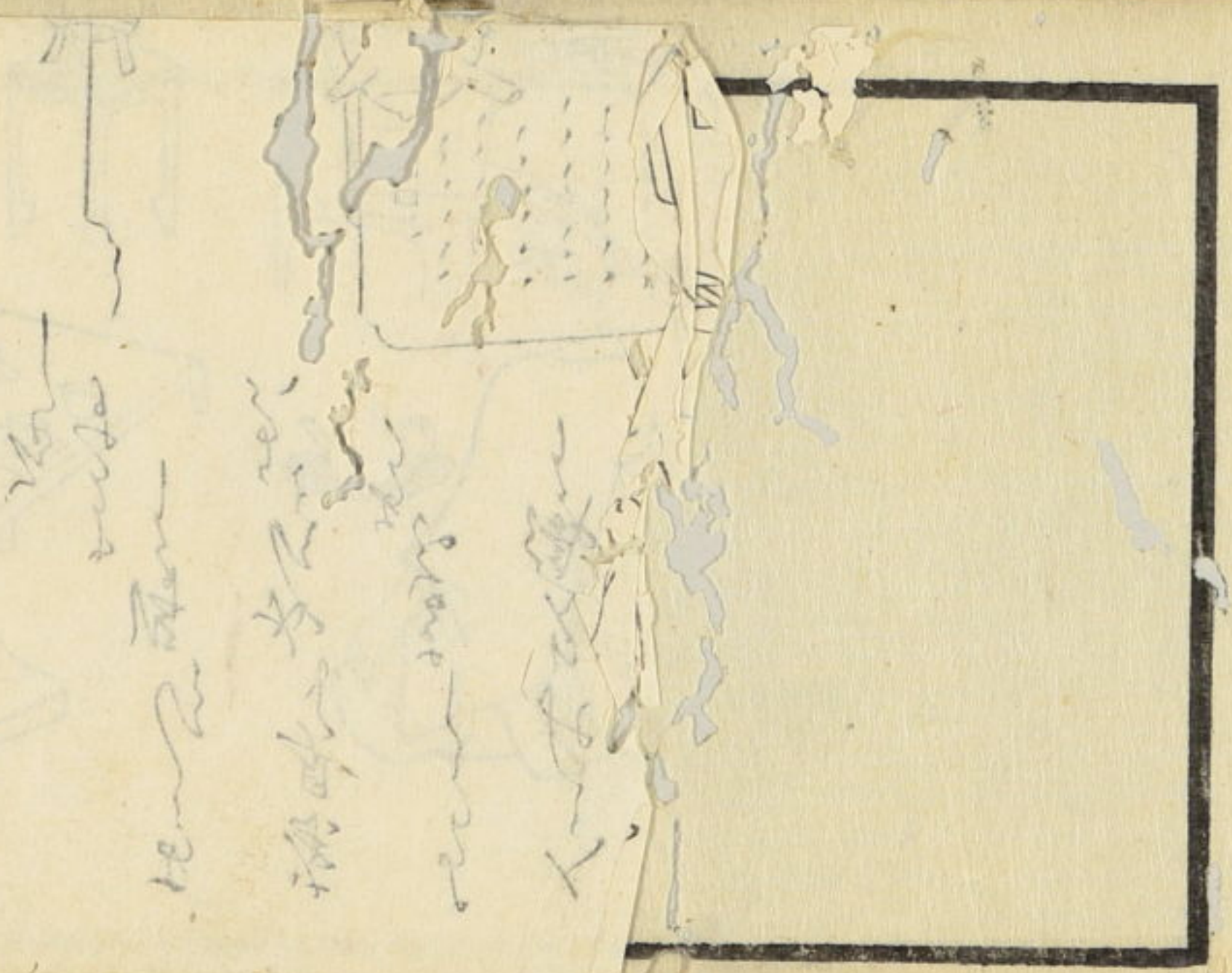
八貴茶次少異

又宇治信楽の

小家の

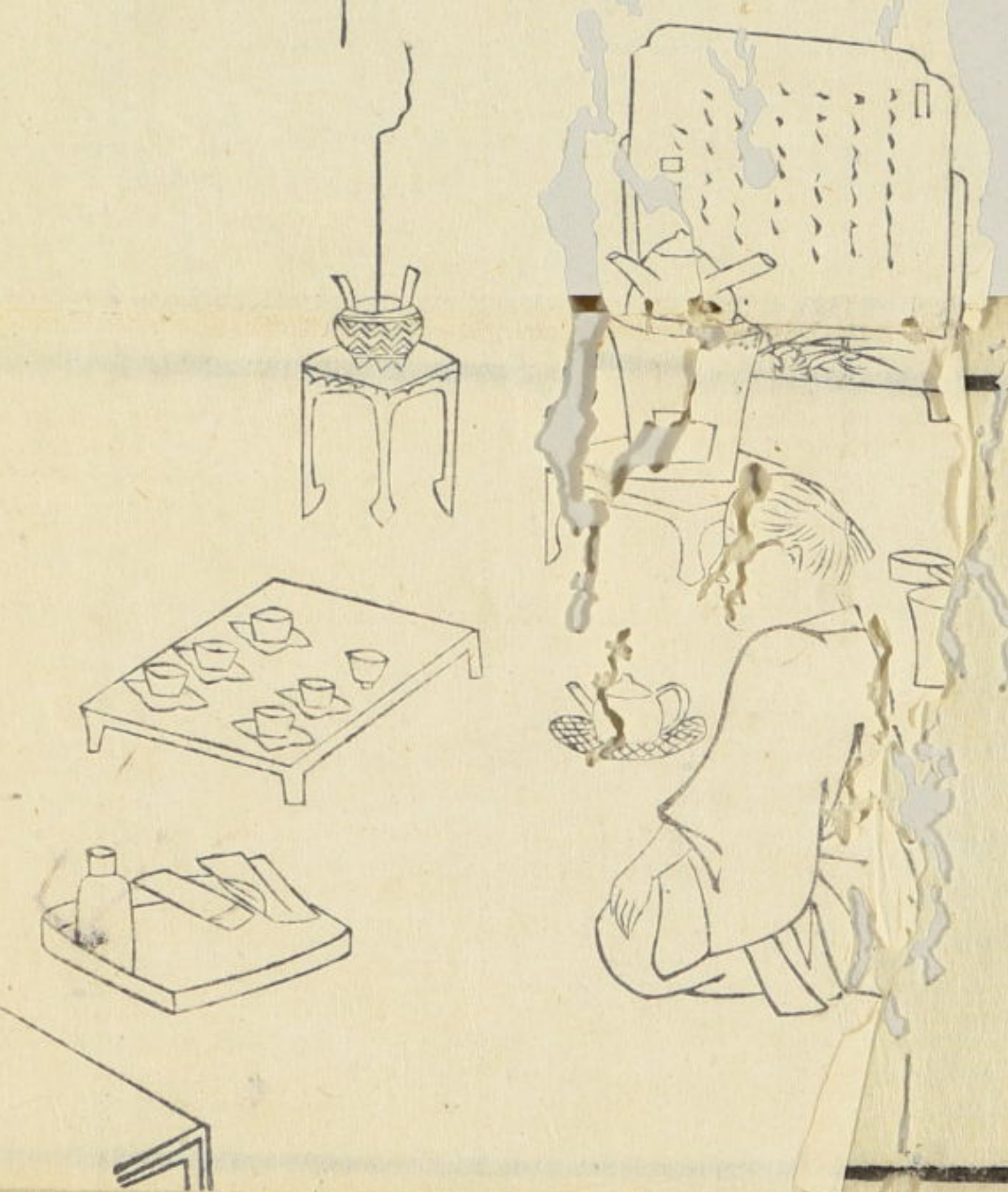
今こふい

茶の



Vertical text on the left edge of the page, partially obscured by damage and staining.

人々を
 茶具
 あり

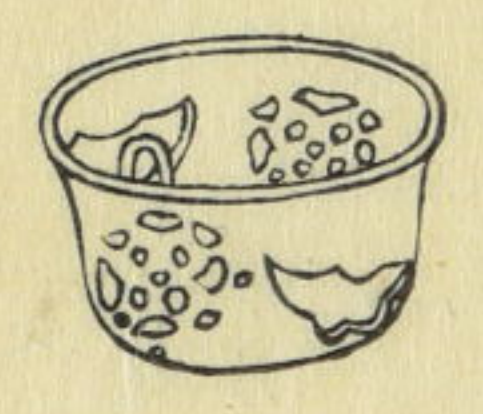


茶品
 神葉 薄雲 玉露
 香雪 寿 金亀
 若艸 白折 折鷹
 雁 花園 雀舌
 友白髪 曙
 右等 茶銘 當時専ら
 用や 不のり たり たる
 ハ 貴茶 家や 異なり
 又 宇治 信楽の 証茶 家
 小 家の 証茶 其 限
 今 今 今 今 今 今
 茶 茶 茶 茶 茶 茶
 茶 茶 茶 茶 茶 茶

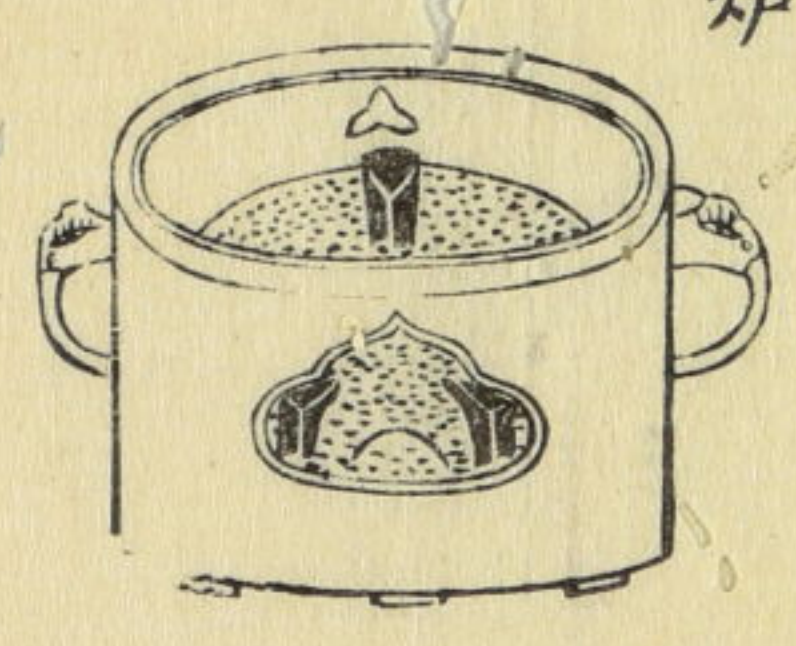
和州法隆寺所藏
古銅風炉



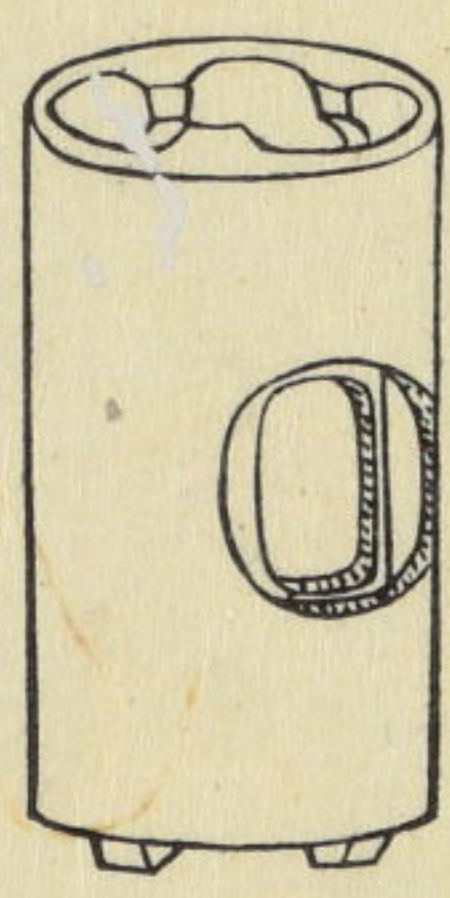
今中イレ



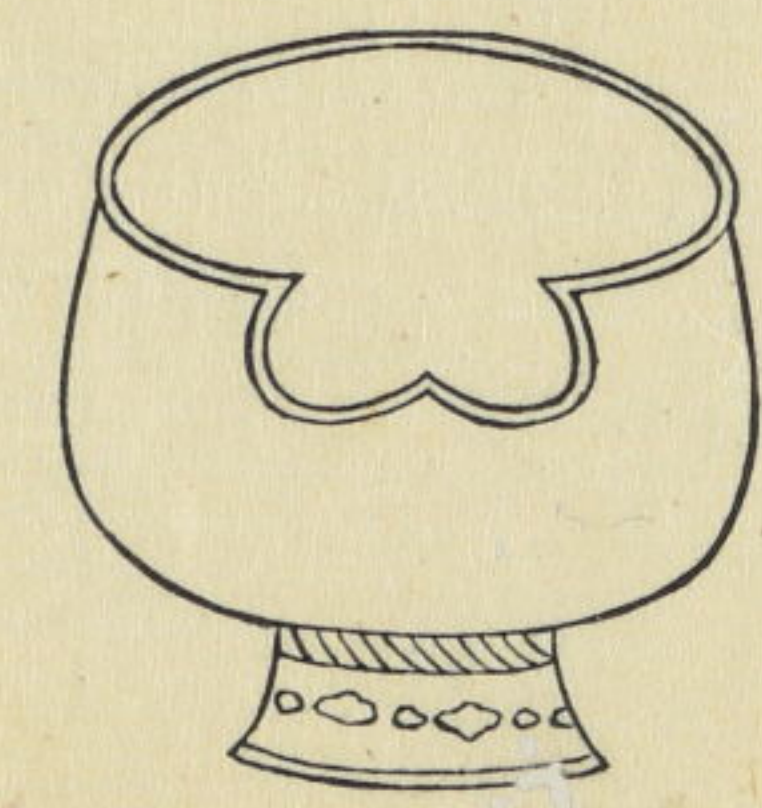
古銅火炉



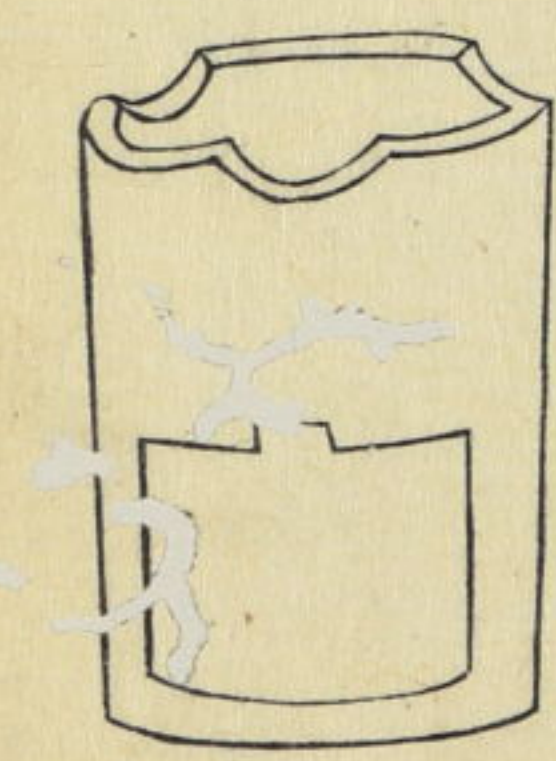
唐製風炉
今九テ凉炉ト云



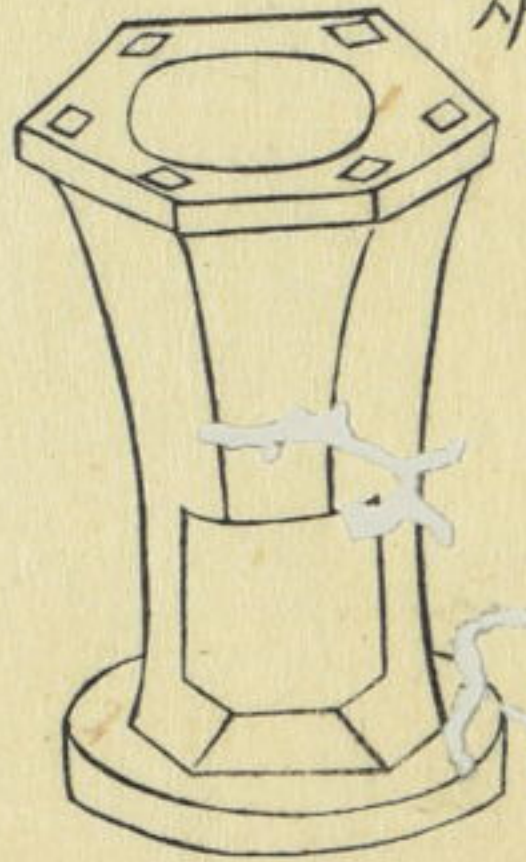
賣茶翁所藏
風炉



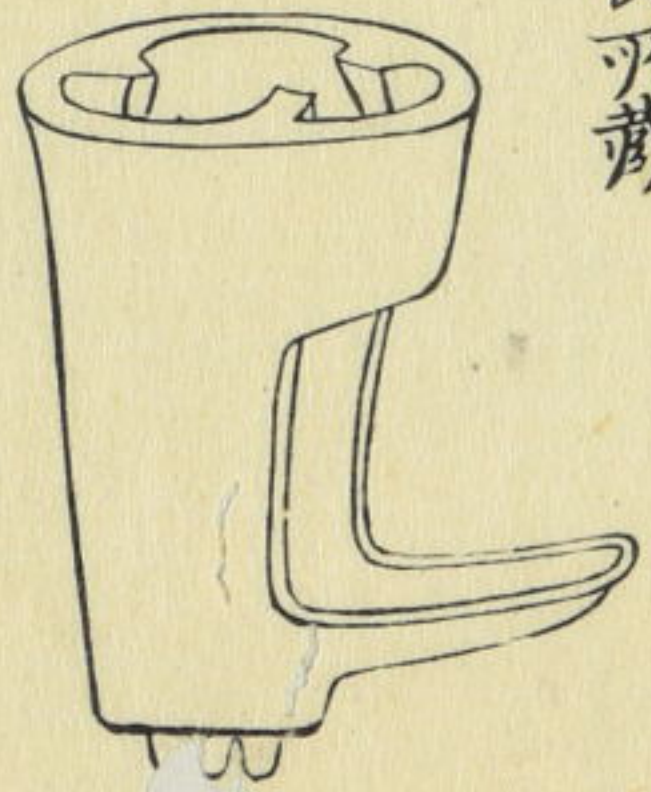
宋存翁所藏
風炉



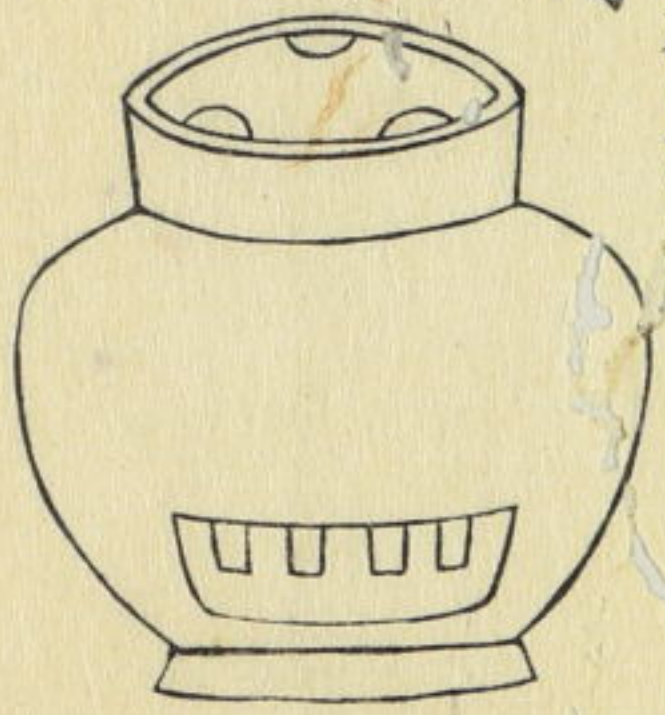
石山舟所藏
風炉



秋田氏所藏
風炉



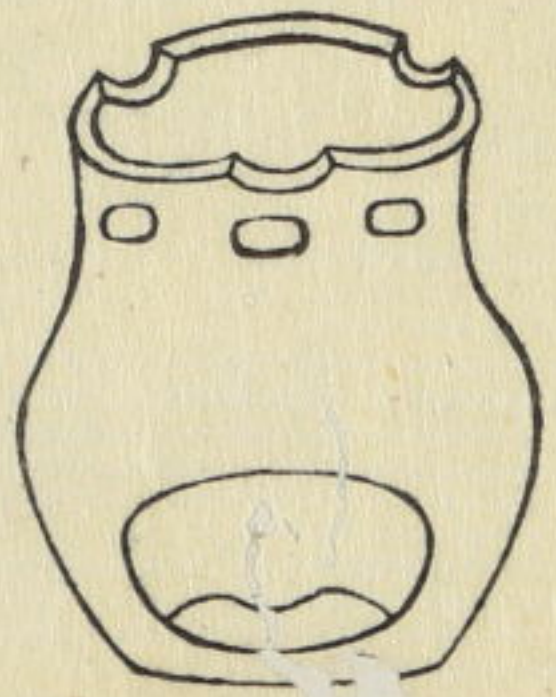
石山舟茶具中
風炉図



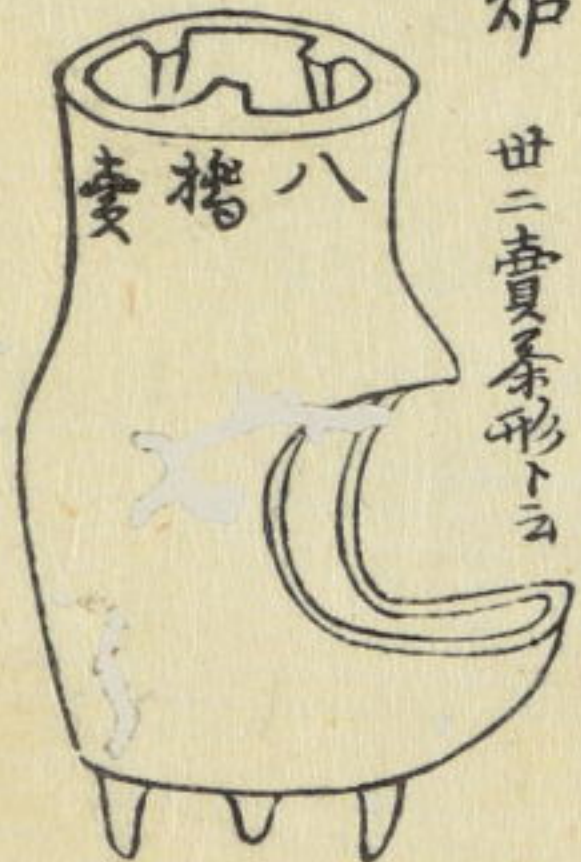
今上



今上



賣茶羽所藏
八橋賣茶羽字有
風炉 世二賣茶形下云



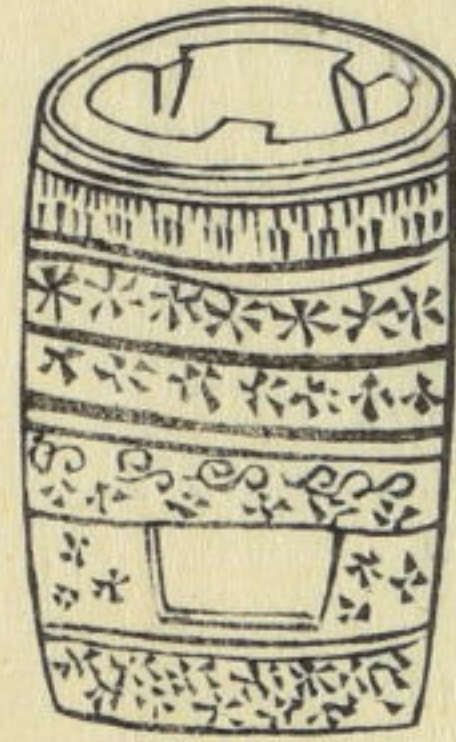
鬪茶七具中銅
風炉



唐製風炉



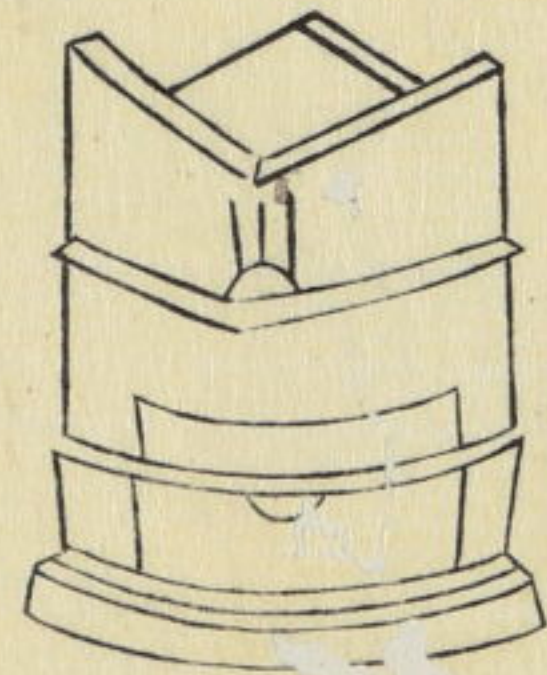
三嶋窑風炉



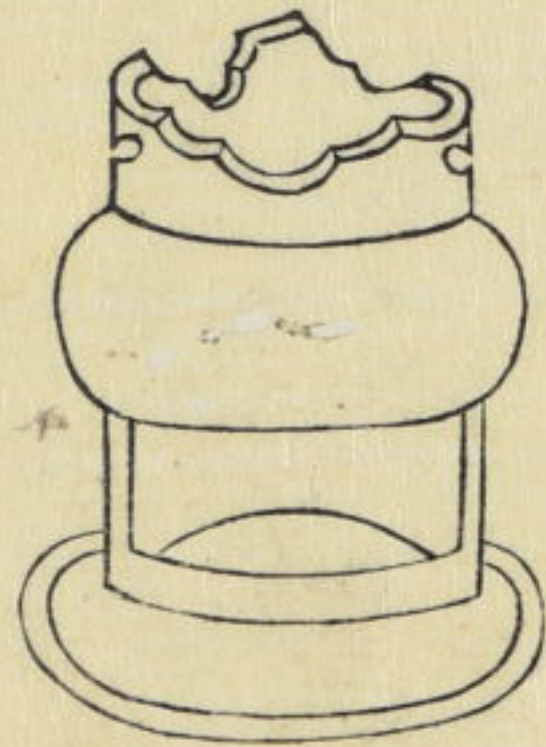
白乙翁藏器



葉舟翁所藏

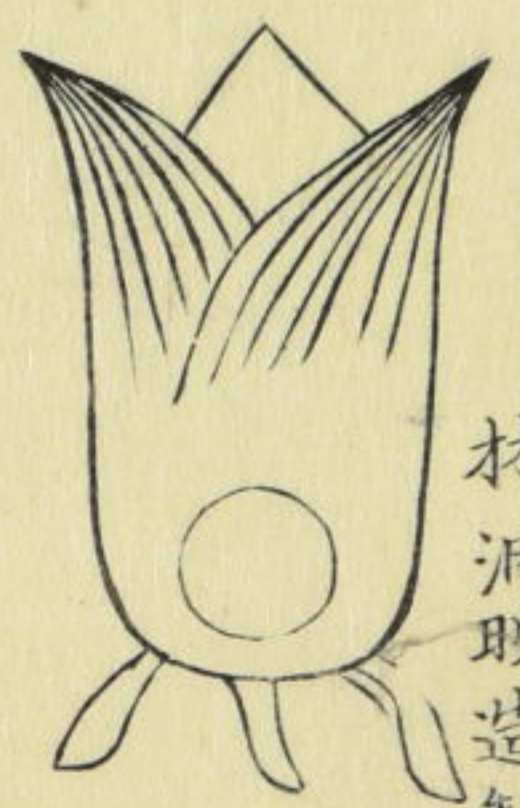


貯未樓珍器

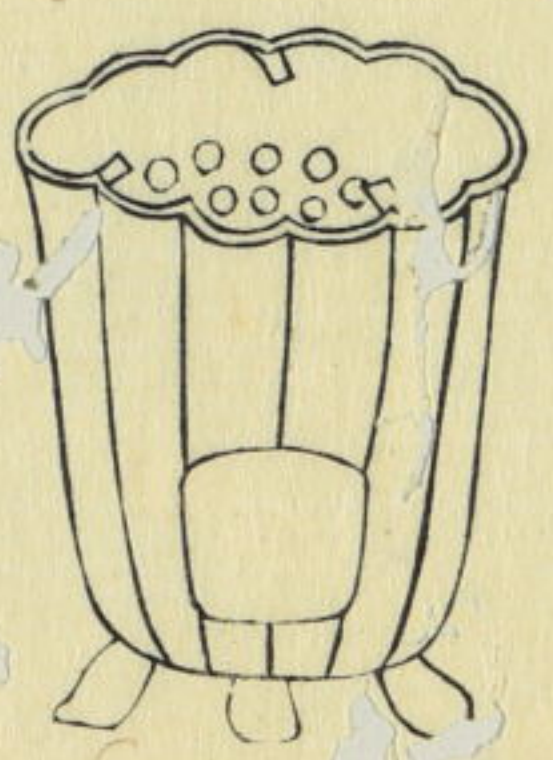


三十一

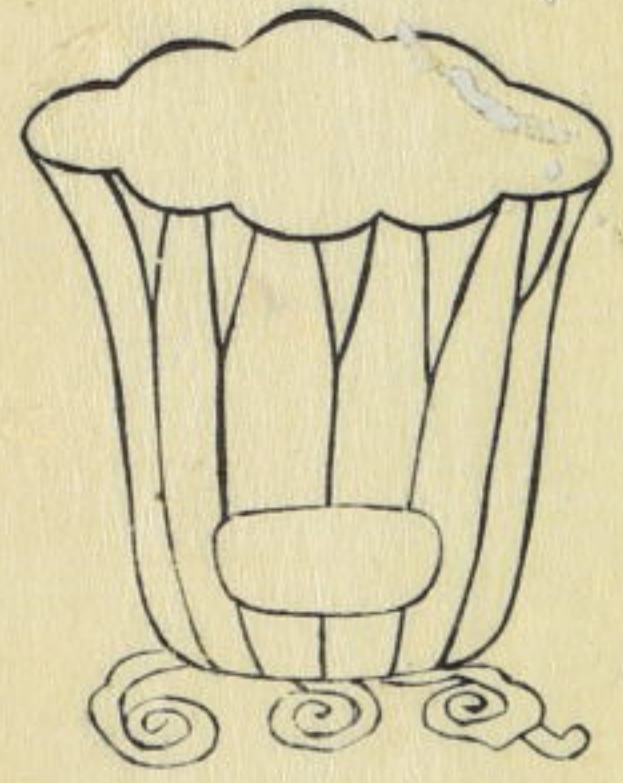
蓮形涼炉
 其形ハ新御衣ニシテ位方ニ未ダナシ
 上長者卑通新學西ノ入學
 林洞映造製



会上



会上



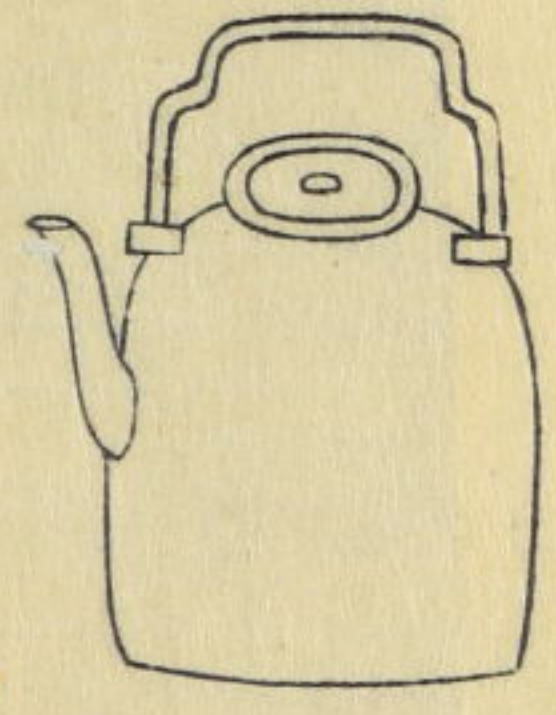
竹田翁藏茶具三罐中
 水罐



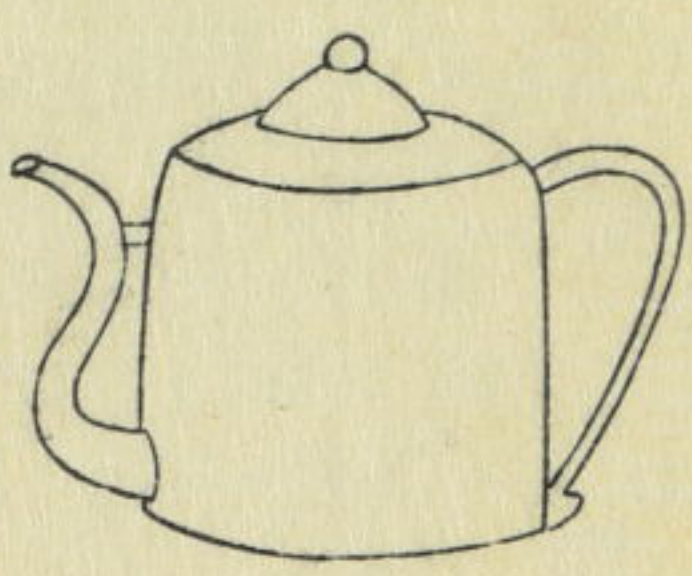
石山斎具中
 水注



石山斎器
 水注



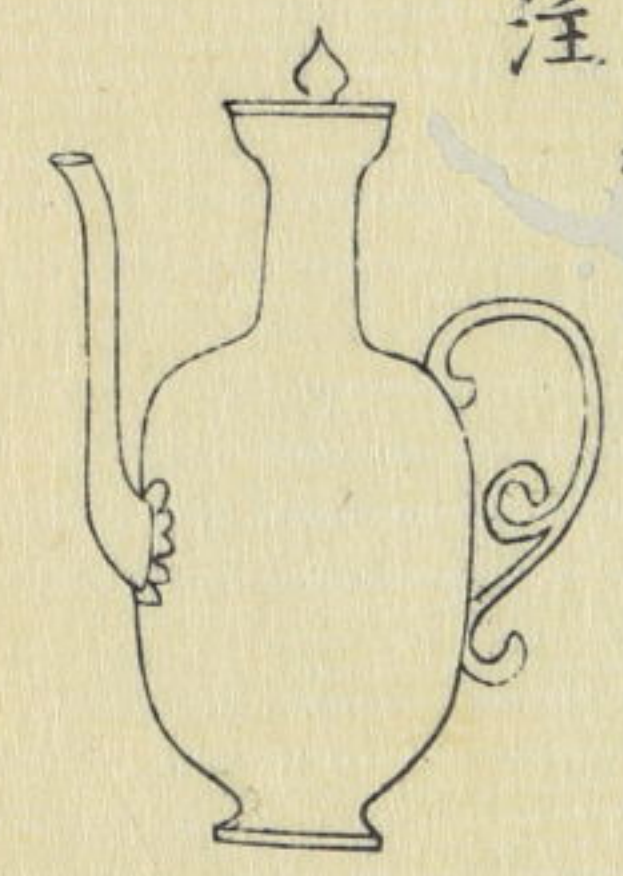
華屋所藏 銀器
水注



東府翁所藏 銀
水注



或家藏 銅
水注



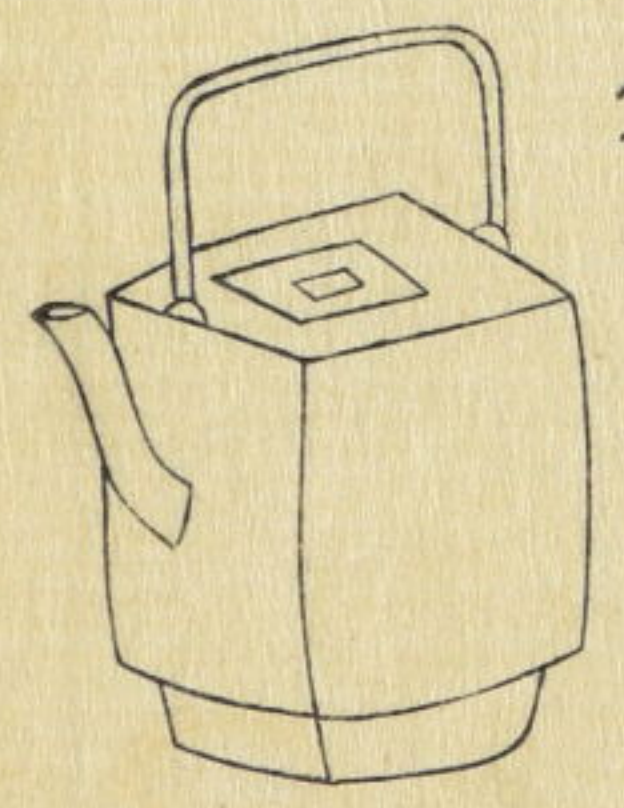
石山所茶具中
湯罐



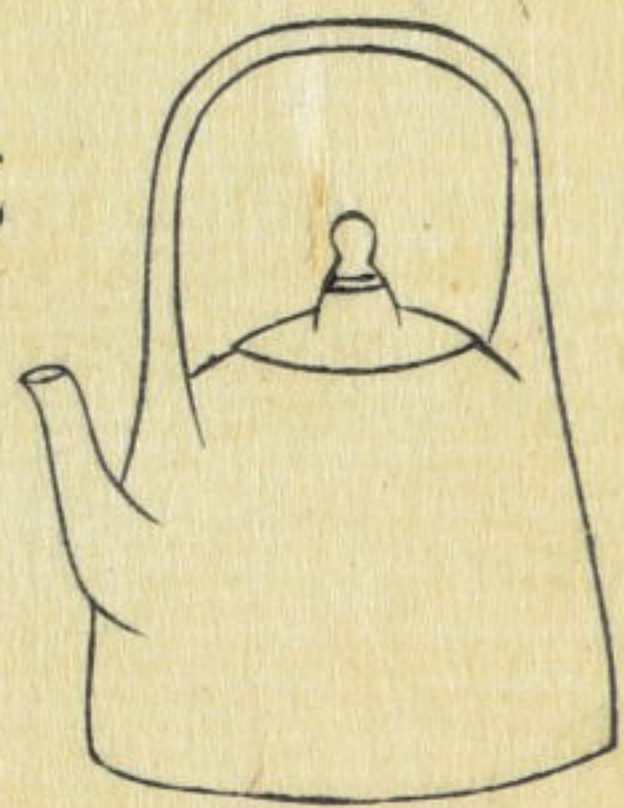
或家藏 紫泥
湯罐



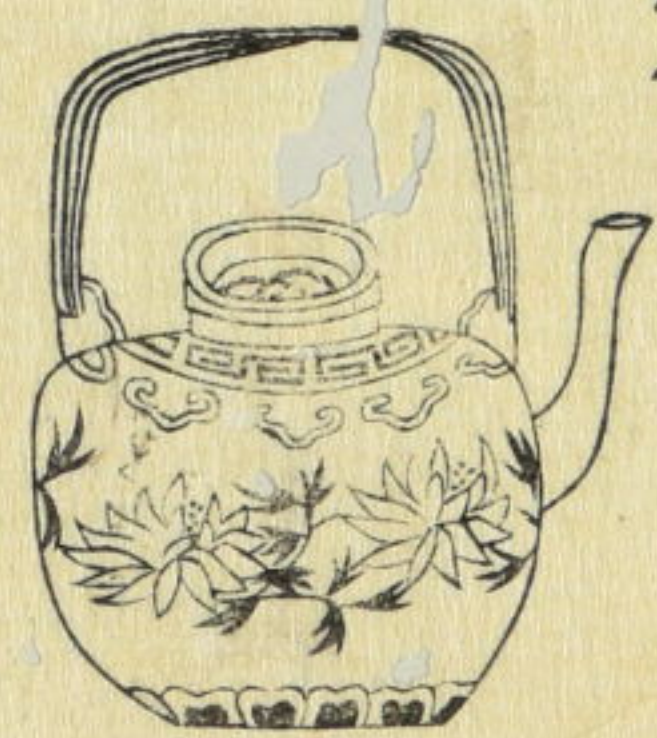
宋府翁所藏 裡銀
湯罐



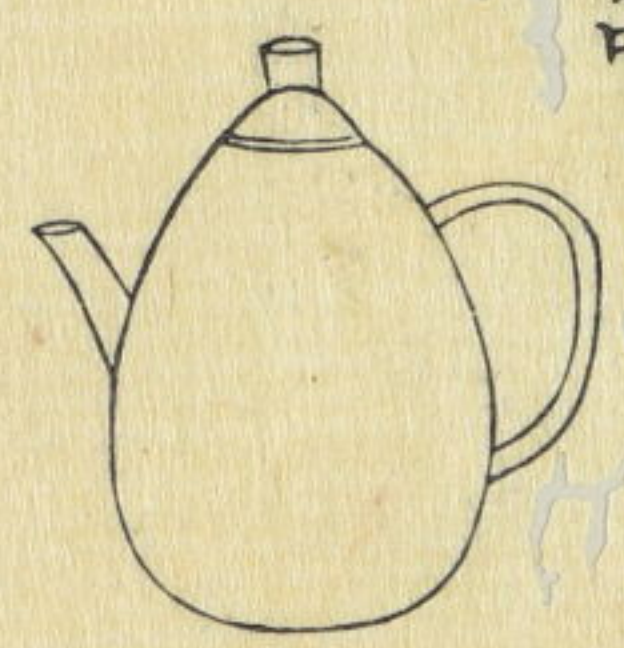
茶壺



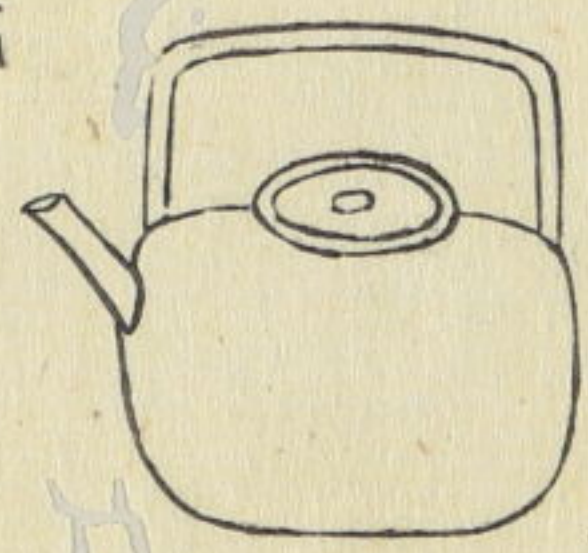
竹田翁截
茶罐



石山翁具中
茶鉞



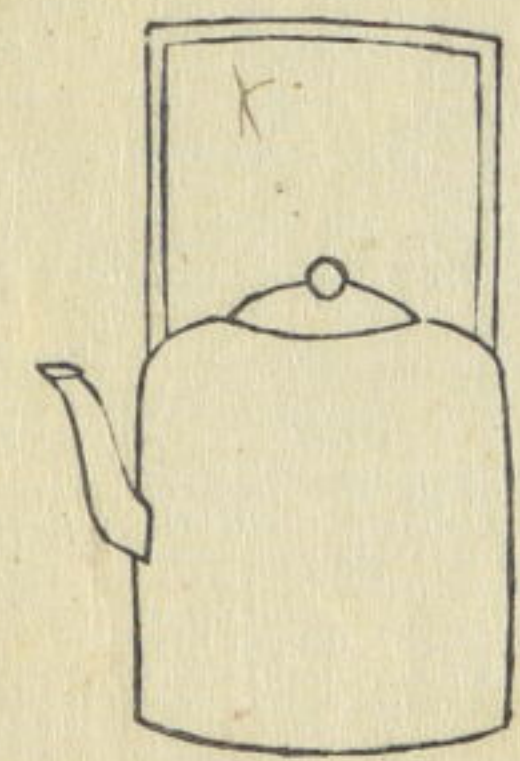
石山翁具中
茶罐



賣茶翁截
茶注



或家截茶泥
茶瓶



四十一

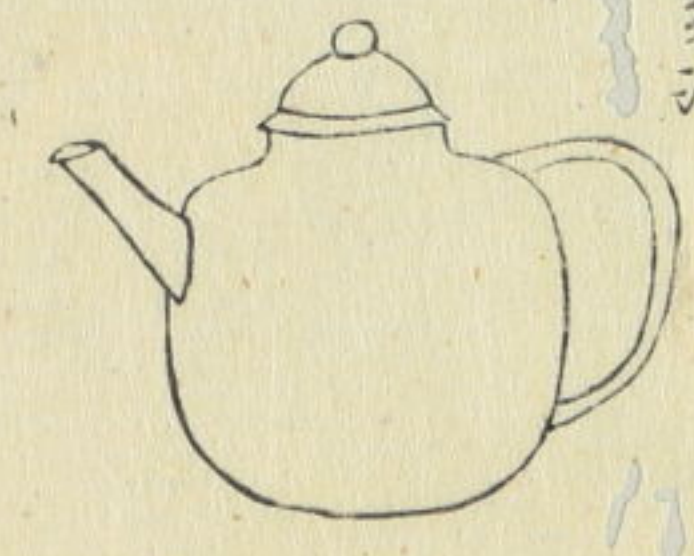
竹田翁所藏
茶罐



乘舟翁
茶瓶



或家藏
茶瓶



紫泥
茶瓶



今上



竹田翁藏
茶瓶



唐製
急尾燒

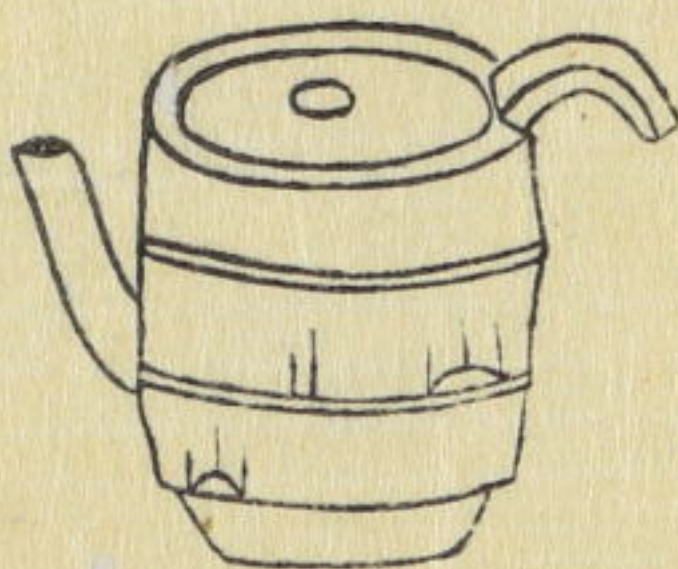


賣茶翁藏
今賣茶形上云

鶉居翁藏
南蠻製



葉亭翁藏
紫泥裡銀
茶瓶



全上

陶茶七異中
茶瓶



南蛮製 近世木杓平ヨリス



南蛮製 近世久太ヨリス

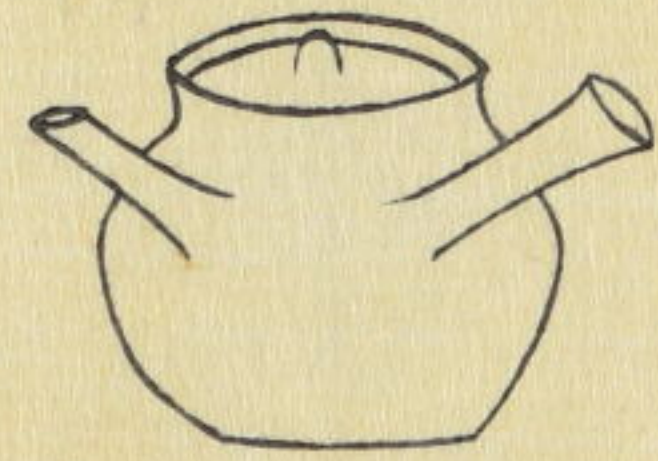


東山殿茶是市
唐制水

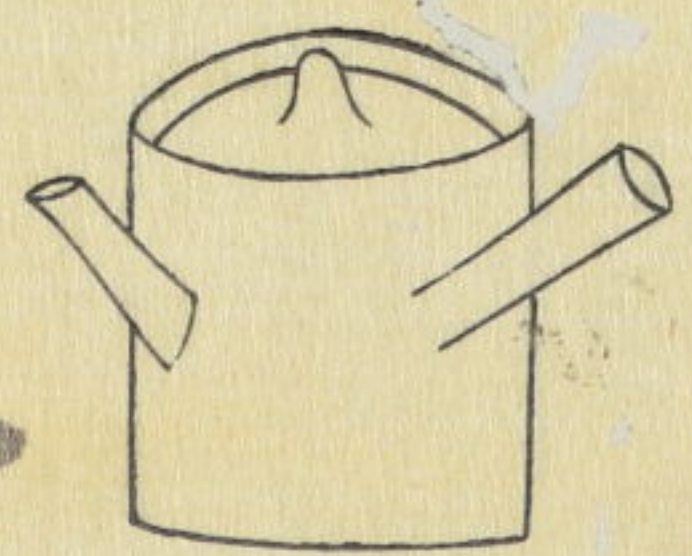
近世六共工
ヨリス



白泥
急尾焼



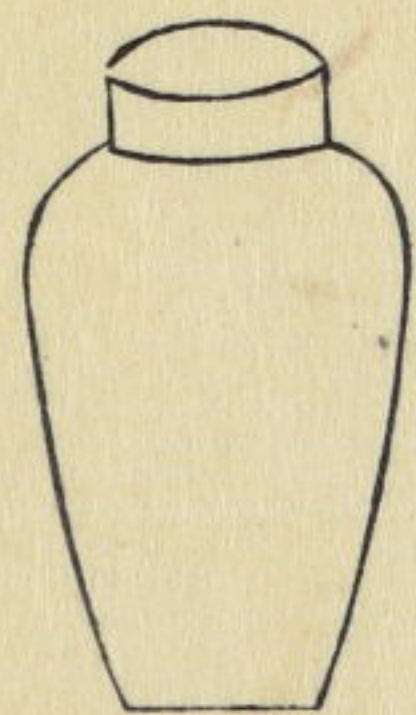
尾州焼



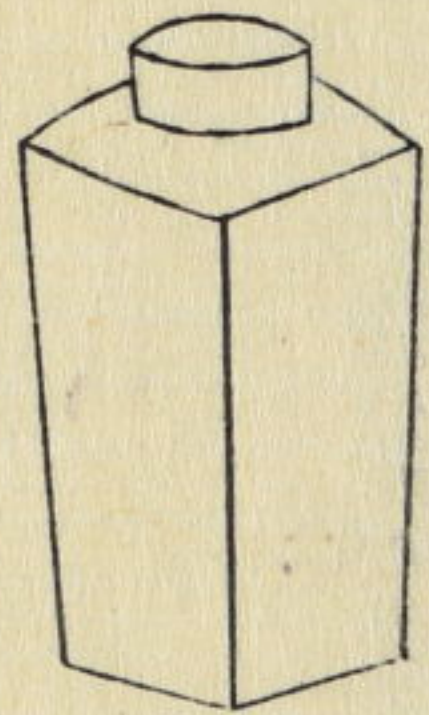
漆付物
今世専ら用ユ



錫

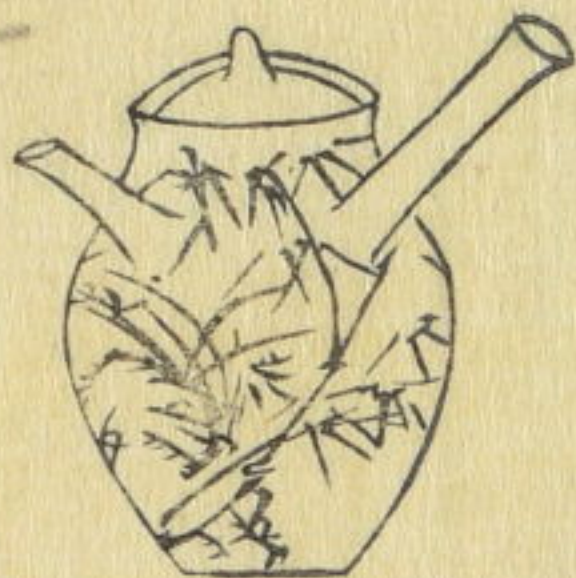


金
ラ
ン
手



錫
茶^{チヤ}罌^{ツボ}
近年ブリキ用
又分茶^{チヤ}盒^{ハコ}

唐
製

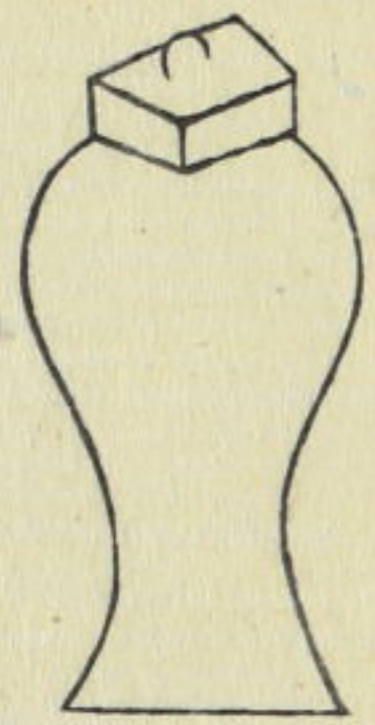


茶
ダ
シ
廣
口
楽
入
ヨ
ク
ス



金
網
手
周
平
ヨ
ク
ス

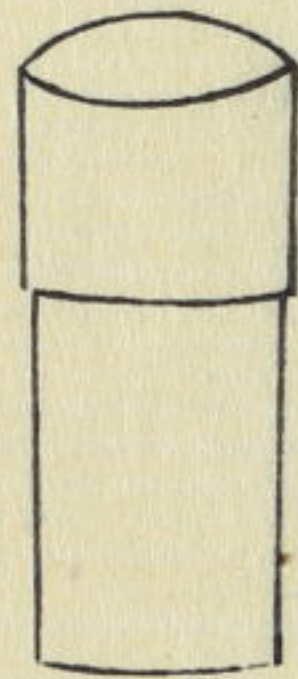
陶物茶ツボ



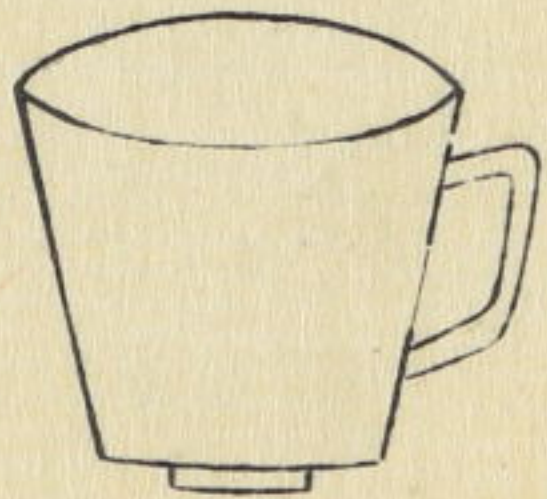
唐物



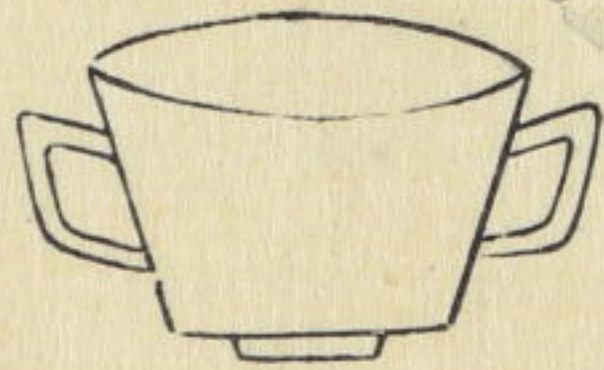
フリキ



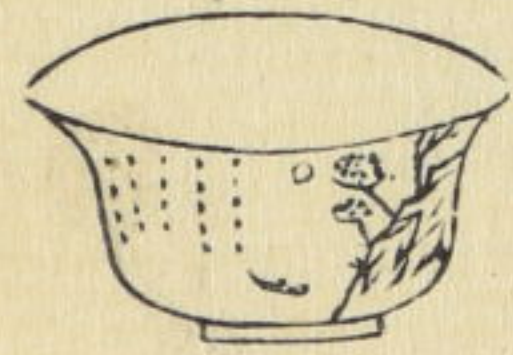
紫泥茶盞



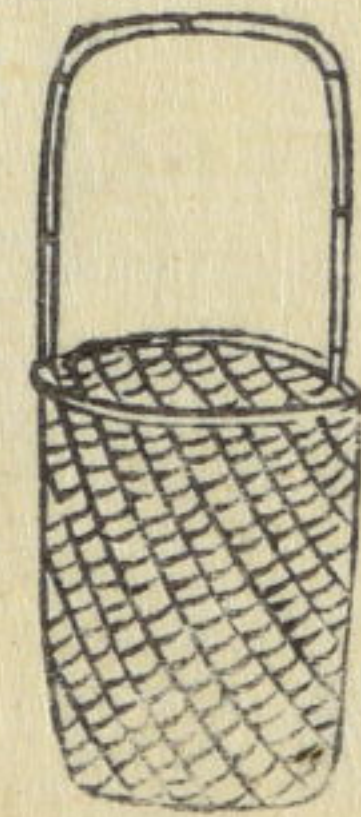
全上



赤壁手
唐物



与三兵卫ヨクス



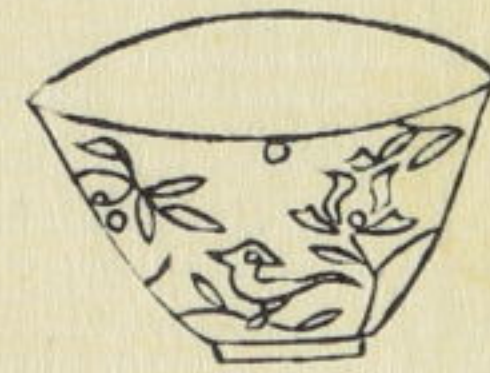
全



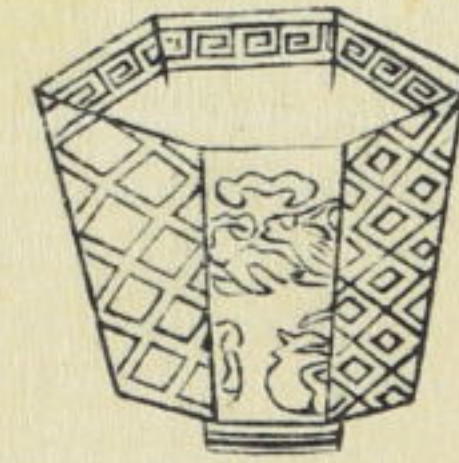
唐全



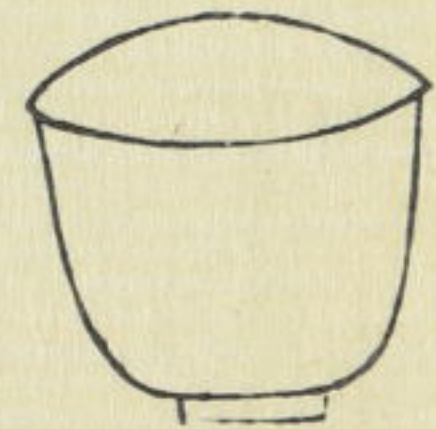
瓢
鳥府



古漆付
或漆藏



漆付



唐製

竹茶匙



全節付

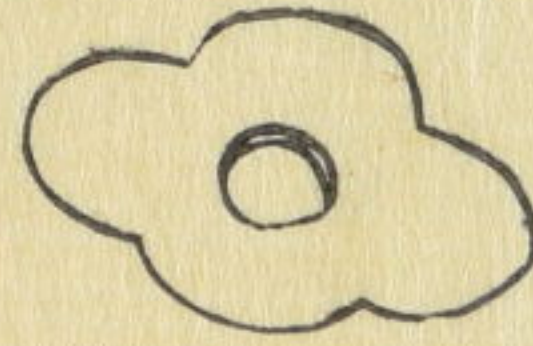
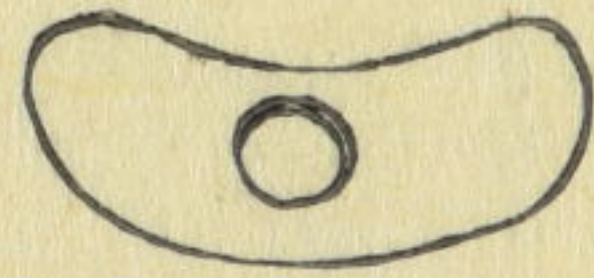


瓢

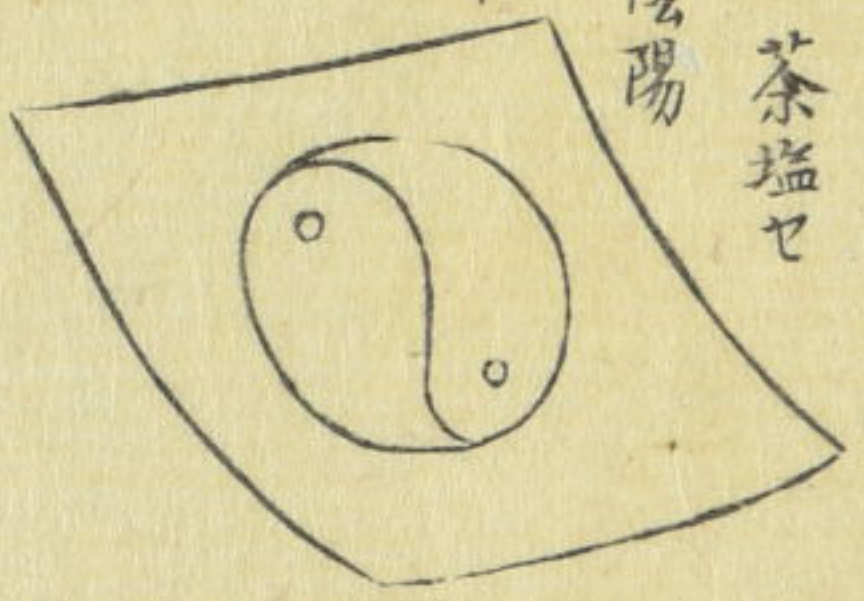


飛閣

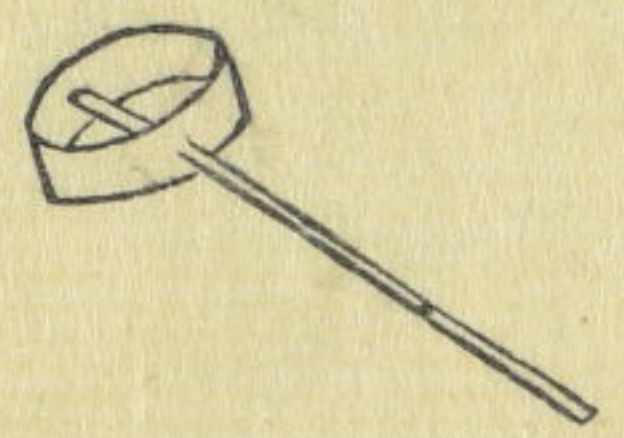
チヤク
錫又ハ
フリキヲ
用ユ



フクサ 帛紗 茶塩セ
モヤウ 陰陽
ノ形ナリ
白ト黄ト
ナリ

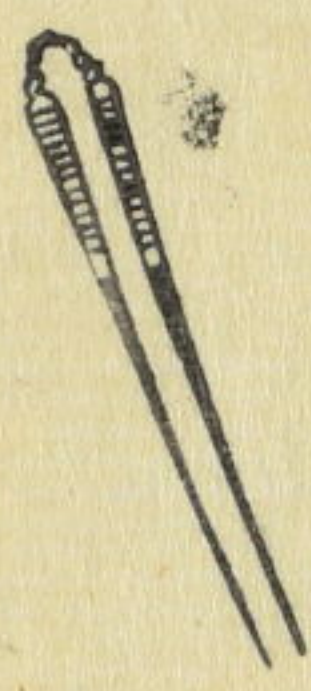


ヒシヤク 水杓



水サレシ壺
ナレハコレヲ
用ユ至テ平
ミノ杓ナリ

ヒバシ 火筴



近世名譽陶工

モク 木平 通称左兵衛号木左
又号馨平南蛮模
ヲヨクス又漆付モノナトコトニ
妙ナリ中興ノ名人也

キタ 久太 唐急ヒシヤウノ名人也
人柄至テ崎ナリユエニ又
其製造モ大ニ風流トリ太ニ
世ニ行ル文政中歿

シウ 周平 秋平トモ書道ハノ身也
全ラニテ色画モノ上手
ナリ天保中歿

現存名陶工

タウ 道八 仁阿ト号ス五條坂住
ルテノ上手ナリ

ヨツ 興三 漆付モノコトニ上手ナリ
五條坂ニ住ス当世専ラ
行ハル

スヤ 六兵衛 清六ト云五條坂ニ住ス
スヤキノ上手也

エラ 永楽 油小路一条ニ住ス上手
ナリ当世大ニ行ハル

龜亭キ 五条坂三住

乾亭ケ 全上

樂入ラク 八坂三住

龍文堂リウブン 安土町ト云銅物ノ
鑄モノ名手ナリ世ニ

大ニ賞ス

洞映ドウエイ 林氏上長者丁新丁ニ
住ス銅鉄ノ鑄モノ名人

ナリ自ラ之家ヲナシテ他ニ類マ
サルノ製家造アリ当今大ニ行ル

これに素心を

前より一人心を

情のしるべき

かたよき物なり

識者の

まじりにあは

くはるる

あはれしるる

たのしみは

あはれしるる

竹月

斎藏

板



弘化四年新刻

榮東

須原屋茂兵衛
山城屋佐兵衛

西宮 弥兵衛
丁子屋平兵衛

鄰

小林 新兵衛
須原屋伊八

岳田屋嘉七

尾陽

永樂屋東四郎
松屋 善兵衛

浪

秋田屋太右衛門
河内屋茂兵衛

花

秋田屋市兵衛
河内屋喜兵衛

肆

平

菱屋正次郎
出雲寺文次郎

安

近江屋佐太郎
電屋 善兵衛

丁子屋源次郎

